

令和2年



2月

ソフィアだより



「ほんのりと 香るいちごは 春の色」

第1回佛教大学小学生俳句大賞から



2

月は、節分。園でも「鬼は外、福は内ー」うたを歌いながら、豆をまき邪気をはらいます。節分の次の日は、立春。いよいよ春に向かいます。豆まきで鬼を退治する話だけではなく、子どもたちには、新しい気持ちになれるね、1つお兄ちゃん、お姉ちゃんのクラスになっていくね。とワクワクする気持ちを伝える春の訪れとしたいです。

『先日、「M-1 グランプリ 2019」決勝戦で3位に食い込んだお笑いコンビ「ぺこぱ」の漫才に衝撃を受けた。誰かをおとしめて笑うのではなく、すべてを肯定したうえで笑いをとる。実に「いまどき」の笑いだと感じた。』 2020（令和2）年1月18日産経書房より抜粋

ぺこぱの漫才は、「宇宙人がきた！」「なんでやねん！」とは落ちないで、

「宇宙人が電車に乗ってくる！」「ということは・・・宇宙船が壊れている可能性がある。移動の手段を失っている。助け合っていこう」となるのです。

応答的な会話に肯定的な対応。子育てに取り入れたい手法です。

肯定的な対応は相手を大事にしようという思いの表れです。産経書房では、このぺこぱの漫才は、「いまどき」の笑い。と書いてありました。が、いつの時代も「自分を大事にしてほしい」という思いは変わりません。子どももそして大人も。

漫才のルーツを調べてみると、江戸の漫才＝三河万歳にあるようです。徳川家康も三河万歳を溺愛していたとか。

漫才は時代の空気を反映しネタにしているからこそ時代が変化しても受け入れられる芸能なのでしょう。だからこそ今の時代の肯定的漫才。自分を大事にしよう。人を大事にしよう。と心から思っている人が多くなったのかもしれませんが。

新しい春！新しい気持ちになれる時期！

「子どもの発達を理解しひとりひとりを丁寧に保育する」ソフィアの保育理念を基本に、大事に保育していきたいと思えます。

ソフィア東生駒こども園 園長 中畑直実

